

重圧はねのける!

V 鹿純心 3

スポーツ

号外



第61回鹿児島県高校バスケトポール大会は6月7日～10日の4日間、鹿児島市の県体育館などであり、男子は鹿児島工が3年連続3回目の、女子は鹿児島純心が3年連続8回目のインターハイ出場を、どちらも決勝リーグ3戦全勝で決めた。男女とも1位が全国大会(7月29日～8月3日 埼玉)2位までが九州大会(6月21、22日 大分)に出場する。政純一郎

「リジグ」で踏ん張る!



小さい連中でよく勝った。4県は新1年生も入ってきっちり勝てた。今回は負けられない戦いをしたって感じと小園裕之監督。新人戦以降の実績からしても、鹿純心がやや抜けていると目されていたが、全てをかけて挑んでくるチームをはねのけるのは、思った以上にきつかった。勝つには勝つたが相手の思い切りを出させてしまいう場面も多かったと指揮官は振り返る。



シード鹿児島純心が終わってみれば全試合2桁得点差をつけ、力強くV3を成し遂げた。今大会は追われるプレッシャーとの戦いでもあった。新人戦はあの

だが、捨て身で向かってくる相手に対して崩れそうな場面も何度があったが、こそといつかときに踏ん張って持ち味を出した。タイムアウトでは苦しいときこそ声を掛けて連絡を密にする、「走る」と、「ホジシヨングをしっかりとる」など基本的なことを繰り返して指示した。気持ちの緩みそうなどころもあったけれど、最後までひたむきな純心らしいハスケができた。3年連続となるインターハイは鹿児島島の代表として恥じないプレーで1つでも多く勝ち進みたいと意気込んでいた。

